

「新養蚕産業構想」実現に向けて

世界最大の養蚕工場建設に着手

岡 農業振興課 ☎(43) 1556



朝焼けの天空桑園（小坂）



起工式の様子

平成26年より進めている、シルク産業の再興・創生を目指すプロジェクト「新養蚕産業構想」。7月27日、鹿北町の広見小学校跡地で、(株)あつまる山鹿シルクによる養蚕工場の起工式が開催され、いよいよ地方創生戦略創造プロジェクトの一つが大きく動き出しました。

山鹿が誇る養蚕業 新技術で復活

本市は、熊本県の近代蚕糸業の開祖である長野濬平氏の出身地であり、かつては非常に養蚕・製糸業が盛んな地域でした。しかし、輸入品の増加による国産シルクの需要の減少や生産農家の高齢化に伴う廃業などにより、全国的にも養蚕業は衰退の一途をたどり、本市内にも2軒の養蚕農家を残すのみとなっています。

このような中、平成26年10月、(株)雇用促進事業会（熊本市現(株)あつまるホールディングス）の島田俊郎社長は、農業生産法人(株)あつまる山鹿シルク（事務所旧山鹿税務署跡）を設立し、新たな手法で、国内のみならず世界を視野に入れたシルク産業の再興・創生を目指し、プロジェクトが始動しました。

「地域のためになるような新しい仕事を創れないかと模索しているときに、年間を通して蚕を飼育し、高品質な繭を生産できるという周年無菌養蚕システムの存在を知りました。そこで、ハンドポールを通じて懇意にしていた中嶋憲正市長にご相談したところ、大変運良く、周囲からの応援も得ることができました。山鹿市の人々が素晴らしいまちづくりをしておられる中に、養蚕の仕事を加えさせていだいて、頑張っていきたいと考えました。（島田社長談）」



島田俊郎社長

従来の養蚕業では、年に3回程度しか繭の生産ができず、また蚕が伝染病に非常に弱いといった生産効率の低さという課題を抱えていて、これを克服する「無菌周年養蚕システム」が国立京都工芸繊維大学で開発されました。

このシステム

は、無菌・常温環境下で極力病気の発生を抑え、年間24回の繭生産が可能となります。この理論に基づき、(株)あつまる山鹿シルクでは無菌工場の実績とノウハウを持つ国内最大ゼネコンである大成建設(株)の協力も得て、最新設備を研究開発。23億円という大規模な投資により、飛躍的な生産性の向上と国内最高クラスの生系の量産体制が構築できるという、まだ誰も実現したことのない画期的な養蚕工場が、来年の3月末、本市に誕生します。



桑を食べる蚕

市、県が連携し 天空桑園の造成から着手

(株)あつまる山鹿シルクを中心に、本市から熊本県へと連携・協業の輪が広がり、耕作放棄地を桑園として造成し、廃校跡地に養蚕工場を建設する計画「新養蚕産業構想」を平成26年に立案。同年12月には、蒲島郁夫熊本県知事立ち会いのもと、島田社長、中嶋市長が「新養蚕産業構想に関する協定」の調印に至ります。

(株)あつまる山鹿シルクでは、まず繭の生産に欠かせない桑畑の造成に着



上空から見た25ヘクタールの天空桑園（青塗りの部分）



整然と植えられた桑の様子

手。本市小坂地区（竹山の草地跡）の25ヘクタールの耕作放棄地を、「天空桑園」として再整備しました。その名にふさわしく、遠く島原半島なども望める、標高600メートルの山上に、25ヘクタールに及ぶ桑園が広がっています。本市では、桑畑へのアクセス道路の沿道環境整備などの支援を行っています。

世界最大の 養蚕工場建設へ

熊本地震の影響で3カ月の延期を余儀なくされましたが、7月27日、広見小学校跡地で、蒲島県知事・中嶋市長をはじめ、来賓・関係者約100人が参加し、(株)あつまる山鹿シルク養蚕工

場新築工事の起工式が盛大に開催されました。総工費23億円の工場は、無菌・常温の環境下で、最先端の技術を駆使した高機能シルク（クモの遺伝子を組み込んだ切れにくいスパイダーシルク、光るシルクなど）の量産にも着手可能になるなど、化粧品・医療用を含めた新たな用途の広がりを見せるシルク産業において、世界的にも最先端の設備を備えます。島田社長は「将来的には蚕の卵生産（蚕種施設）から糸生産（製糸工場）まで、一貫したシルク量産体制を構築し、さまざまな地域産業へと波及・拡大させていきたい」と話しました。

建屋面積は4174平方メートル（約1260坪）で、規模としては世界最大の養蚕工場です。起工式には県内外から多くのメディアが集まり、本プロジェクトの注目度の高さがうかがえました。



基礎工事が進む建設現場（8月19日）

世界を視野に入れた
プロジェクト名を発表

今後は、商品開発や販路開拓のための取り組みが始まります。国内のみならず、世界への発信も視野に入れていくことから、ブランディング（※ブランドとして認知されていないものをブランドに育て上げる）については、海外展開でもトップの実績を持つ伊藤忠グループと連携。さらに、俳優・映画監督としても著名な伊勢谷友介氏率いる（株）バースプロジェクトの企画力も加え、この「新養蚕産業構想」のプロジェクトの名称を「SILK on VALLEY YAMAGA（シルクオンバレー ヤマガ）」に決定しました。

この名前には、姫御前岳や国見山、八方ヶ岳に囲まれた盆地（VALLEY）に位置する山鹿から、日本の養蚕・シルク（SILK）産業を再興し、世界のシルク産業拠点として羽ばたくという願い、決意が込められています。



桑園に立つ伊勢谷氏



シルク製品の一例

実際に天空桑園を訪れた伊勢谷氏は、日本に古くからある伝統的産業の復活への期待と、それが最新のテクノロジーによって、新たな産業へと進化するシルク産業創生の物語にマッチするプロジェクト名になればと語りました。

今後期待される
波及効果

「SILK on VALLEY YAMAGA」プロジェクトの推進によって、本市では、大きく四つの効果を見込んでいます。

まずは①桑園・工場の拡大による遊休地・耕作放棄地の解消です。続いて②工場の稼働、関連産業が集積することで生まれる地元雇用の創出や、若者などの定住促進です。さらに③工場企業などと連携した6次産業化の推進や地域産業の活性化④世界に誇れる新たな付加価値と高機能を備えた『山鹿シルク』によるジャパンブランド力の向上と交流人口の増加を目指します。

養蚕工場での直接的な雇用増などの



8月12日、市役所を訪れた伊勢谷氏と中嶋市長の懇談

効果だけでなく、本市における「まち・ひと・しごと」づくりの全てに寄与する、まさに地方創生のモデルとなる取り組みへと育てていきたいと考えています。

ことし10月には本プロジェクトを情報発信するウェブサイトも公開する予定であり、来年度には本市において「シルクサミット」を開催できるよう調整しています。

今後もプロジェクト効果を最大限に引き出せるよう、関係機関と協力しながら、全国の新たなシルク産業の拠点化とともに、山鹿市ブランド力の向上に努めていきます。

新養蚕産業構想プロジェクト

『SILK on VALLEY YAMAGA』始動！



工場の完成予想図